

会津地区における児童・生徒の心電図検査概況

○大内真樹子、宍戸幹夫、真柄保夫、
渡辺伸、吉田眞理、鈴木仁

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

学校保健安全法施行規則により学校心臓検診での心電図検査は平成7年より小、中、高等学校の各1年生全員にその実施が義務づけられた。当協会、会津地区センターでは従来、会津地方の17市町村すべての小、中、高等学校の心電図検査を実施してきた。今回その一次所見と精密検査の結果について考察する機会を得たので、概要を報告する。

【対象と方法】

平成23年度に学校心臓検診として、調査票の聴取と安静時標準12誘導心電図検査を受診

した小、中、高校生 15,573 人中、要精密検査となった 459 人を対象とした。精密検査の結果は、医療機関からの精検ハガキの返信と学校への問い合わせにより回答があったものを対象とした。

【 結 果 】

要精密検査対象の 459 人中、375 人 81.7% が精密検査を受診したが、84 人 18.3% は返信がなかった。精検受診者の内訳は、異常なしが最も多く 141 人 30.7% であった。一次検査で有所見項目の多い順にその内容をみると、心室性期外収縮 61 人では、心室性期外収縮 42 人、その他 7 人、異常なし 2 人、上室性期外収縮 52 人では、上室性期外収縮 30 人、その他 5 人、異常なし 11 人、完全右脚ブロック 50 人では、完全右脚ブロック 30 人、その他 3 人、異常なし 4 人、不完全右脚ブロック 50 人では、不完全右脚ブロック 20 人、その他 5 人、異常なし 20 人、WPW 症候群 32 人では、WPW 症候群 19 人、その他 5 人、異常なし 4 人であった。

精密検査で異常なしとなった例が多かった一次所見は陰性 T 波と異常 Q 波であった。陰性 T 波は 49 人中 24 人、異常 Q 波では 17 人中 14 人が異常なしと判定された。しかし、小学生で見つかった陰性 T 波の 1 例は心筋炎と診断された。

心電図所見に異常はないが、問診により精密検査の対象となった例は 38 人あり、その内 13 人は異常なしであった。また、精密検査の未受診者が 17 人と多かった。

【 考 察 】

今回の集計の結果から、期外収縮やブロックの一次所見は精密検査の結果とよく一致していた。自覚症状を記載した問診結果により精密検査になった中学生、高校生が多かったが、その精検受診率は低かった。その理由として大部分が日常生活に支障を来さない程度の自覚症状であったことが伺われた。しかし、その中に精密検査で第二度房室ブロック

(Wenchbach 型) と診断された 1 例が含まれて

いたことから、調査票の重要性が再認識された。

【まとめ】

今回、会津地区の学校心臓検診について、精密検査対象者の追跡調査を実施し、一次スクリーニングと精密検査との間に興味ある知見を得ることができた。今後もこれら検証を継続し、検診精度向上のため努力して行きたい。